

〈国際金融パネル〉

アジア共通通貨の可能性

愛知大学 栗原 裕

〔パネルの主旨〕

アジア通貨危機、ユーロ導入以来、共通通貨への提言は多々なされてきた。チェンマイ・イニシアティブの際にもこの問題に関心が集まった。共通通貨には、為替リスクや取引費用の削減、市場や選択肢の拡大を導く経済的効果のほか、政治・外交的なメリットもある。アジア共通通貨については、一部の研究者のみならず、政界、財界でも前向きなスタンスが示されているが、デメリットもあることは明らかであり、現実導入が可能か否かと問われれば、否定的な見解が多いのが実態であろう。その理由については、最適通貨圏の議論が援用されることが多いが、もちろん経済的理由だけではない。

一方、共通通貨をいきなり導入するのではなく、アジア通貨のバスケット通貨建て債券の発行、アジア通貨単位の創設などを推進させるべきであるとの議論が活発になされ、現実さまざまな取り組みも始まっている。

アジアに安定的な通貨が誕生することは、他国・他地域にとって悪い話ではないと思われる。通貨切り下げ競争が避けられ、通貨危機のような状況が発生する可能性は著しく減少するものとなろう。リーマンショックの際に、あらためてこの問題を想起させることとなったのは記憶に新しい。参加国のマクロ政策の運営が適切なものになる確率も高く、アジアの高い成長率や貯蓄率を有効に活用するといったメリットもある。その意味では IMF、米国、欧州との協調、国際理解が必要となるであろう。さらには、各国が健全なマクロ経済運営を行うこと、市場の健全な醸成を図ること、構造改革を実施することがより一層求められよう。

今回、国際金融、とくにこの分野に精通しておられるパネラー、討論者の方々に、アジア共通通貨の導入の是非について、ご議論をいただく機会を得た。

日本にとっては国益に関わる大きな問題であり、本日の討論がきっかけとなって、実務家、研究者、所属機関などといった枠にとらわれず、幅広く多角的な観点から、活発な議論が提起されることとなれば幸いである。